ジオ通信(第５回)

大地を見る目を磨こう！

～めざせ！筑波山地域ジオパーク～

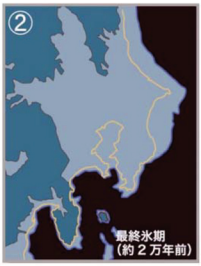
大地のことを楽しみながら学べる「ジオパーク」。「ジオ」は「地球・大地」という意味があり、ジオパークは「大地の公園」ともいわれています。現在つくば市は、周辺市(石岡市、笠間市、桜川市、土浦市、かすみがうら市)とともに、平成28年度の日本ジオパーク認定を目指しています。

申・問　ジオパーク推進室H「筑波山地域ジオパーク構想」で検索

筑波山地域のジオ話～霞ヶ浦の成り立ち～

約12万年前の最終間氷期は暖かく、海水面が上昇して古東京湾と呼ばれる大きな湾が入り込み、海岸線は筑波山麓に達していました。やがて氷期を迎えて海水準が下がると、河川が台地を削って谷が形成されました。また、大陸と陸橋でつながったことから、当時の地層からはナウマンゾウなどの化石が産出しています。縄文時代前期には、温暖な気候の下で谷に海水が入り込み、やがて山地からの土砂が深い谷間を埋めて、低地が形成されました。霞ヶ浦は近世になって海の入り江から汽水湖(※淡水と海水が混ざった湖)、そして淡水湖へと姿を変えていきました。

古東京湾の時代



旧石器時代

縄文時代

現在(※)

※利根川流路変更、霞ヶ浦淡水化などの人工的改変もなされた

出典:地質調査総合センター　研究資料集No.456

(1)筑波山地域でみられる地層には、貝化石が厚く密集した「貝化石層」が観察できる場所があります。これらの貝化石層には、内湾から外海などのさまざまな環境で生活している貝が含まれており、貝化石層は当時の海の環境情報の宝庫といえます

(2)縄文時代の海岸線付近には、貝塚が多数残されており、人々の生活の様子がうかがえます

筑波山地域のジオカフェ(筑ジオカフェ)開催中！

筑波山地域のジオの魅力を楽しみながら学べる「筑ジオカフェ」を開催しています。参加無料・予約不要。簡単なお茶やお菓子が出ます。詳しくはホームページをご覧になるか、お問い合わせください。

日時毎月第１・３(水)18:30～20:00　場所つくば総合インフォメーションセンター交流サロン(BiViつくば２階)

筑波山地域ジオパークサポーター募集中！

ジオパークの活動状況やイベント案内などの情報をお届けします。登録方法など詳細は「筑波山地域ジオパーク構想」のホームページをご覧になるか、お問い合わせください。

めざせ！筑波山地域ジオパークフォーラム2015

「水辺のジオ～大地といきものの多様性とその変化～」開催決定！

水辺とジオ(地球・大地)との関係について考えてみませんか？　今回のフォーラムでは、霞ヶ浦に代表される水辺における大地の遺産の魅力や、長年にわたり国立環境研究所が取り組んできた関連研究と最新の知見などを紹介します。そして、地域の皆さんと自治体や研究機関が連携して、霞ヶ浦流域を代表する大地と生き物の多様性を、保全・モニタリングすることの重要性を提唱します。※参加無料・予約不要

日時　12月20日(日)9:30～16:00　　場所　霞浦の湯大ホール会議室(土浦市)

基調講演

○「筑波山地域ジオパーク」をめざして －特に霞ヶ浦のアトラクティブ・サイト－（沼澤篤氏:元茨城大学特任教授、茨城県霞ケ浦環境科学センター）

○ジオ多様性保全の場としてのジオパーク(目代邦康氏:自然保護助成基金主任研究員)

セッション１:水と人とのつながり～山・川・湖の水資源をまもる～

○筑波山を流れる小さな川の環境問題(渡邊未来氏(※１))　○恵みの湖、霞ヶ浦を見続けて(小松一弘氏(※１))

○霞ヶ浦の物質循環を診る(篠原隆一郎氏(※１))　(※１)３氏とも国立環境研究所地域環境研究センター所属

セッション２:生き物と人とのつながり～生物多様性と生態系をまもる～

○魚類の多様性、漁獲資源量、水産加工品の生産量から読み解く霞ヶ浦の変化(松崎慎一郎氏(※２))

○水中のDNAから見つける霞ヶ浦のいきもの(今藤夏子氏(※２))　(※２)２氏とも国立環境研究所生物・生態系環境研究センター所属